



『放射線科とIT、ミレニアルズ世代』

昭和大学藤が丘病院 放射線科 准教授 橋本東児

『リハビリテーション病院より リハビリテーション部の紹介』

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 技士長 大野範夫

『平成22年度 新入職員が入職しました』

『「看護の日」フェスティバルを開催して』

『新人看護師一ワッペンにお気づきですかー』

『病院からのお知らせ』

『TOP | C』

巻頭言

『放射線科とIT、ミレニアルズ世代』



放射線科
医長・准教授 橋本東児

放射線科および放射線部の運営の長として、皆様の日頃のご利用、ご協力に深く感謝申し上げます。

放射線科の業務は、放射線治療と画像診断、血管撮影手技を応用したIVR治療に大別されます。多くの診療科との連携が診療の主軸です。放射線治療医の不足は全国的に深刻で、当院でも常勤治療医が不在です。昭和大学病院からの応援により対処しておりますが、院外からの受け入れができず、大変ご迷惑をおかけしております。改善され次第ご案内申し上げます。

放射線科の読影業務においては、PACSというITの恩恵を受け、多数の画像を効率よく閲覧できます。扱う画像データはDicomという共通規格です。iPhone上でデータを操作することも可能です。その汎用性から、遠隔画像診断も容易となります。遠隔システムの普及により、

施設間の画像診断を介した連携がより緊密になると期待されます。我々も、地域医療の中で放射線専門医の経験を活用していただけるよう、体制作り而努力していきたいと存じます。近年のITの普及は、読影業務の需要増加と人員の流出に拍車をかけました。アメリカでは1975～89年に生まれた世代を「ミレニアルズ」と呼ぶそうです。情報に対する感性が異なり、業務遂行方法がかつての時代とは異なる世代です。彼らの感覚が既存の雇用形態をも変化させています。負の効果が出ると人員流出につながりますが、悪循環を断ち切る組織再編も可能です。たとえば、遠隔システムというITを使用し、オンサイトの医師を現場にいないオフサイトの医師が補完するという雇用方法です。ライフスタイルの違いが緩衝され、散在する人的資源を集約することになります。

ITの進歩の変化は速く、時には振り回されそうです。理想は別として、利用形態の変化をしっかりと見据え、日頃から準備を怠らず、しっかりと前進してまいりたいと存じます。皆様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

藤が丘リハビリテーション病院 リハビリテーション部の紹介

リハビリテーション病院には、リハビリテーション科の他に、患者さんの日常生活動作の獲得、言語聴覚能力の回復を援助するリハビリテーション部があります。リハビリテーション部は、理学、作業、言語聴覚療法の3つの部門で構成されています。

理学療法は、寝返りをする、起き上がる、立ち上がる、歩く等、基本的動作と呼ばれる能力に、病気や障害により支障をきたした患者さんに、その能力の回復等を目的に行われます。

作業療法は、食事、排泄、更衣、整容(洗面、歯磨き、髭剃りなど)、入浴動作等応用的動作と呼ばれる能力に、支障をきたした患者さんに行われます。

言語聴覚療法は、言語機能(理解する・話す)、音声機能、又は聴覚など他の人とコミュニケーションをはかるための機能や、摂食・嚥下機能に支障をきたした患者さんに行われます。

職員はチーム医療、連携の重要性を認識し、より安全で効果的な療法を目指し、日々業務に励んでいます。

(藤が丘リハビリテーション病院 技士長 大野範夫)



平成 22 年度 新入職員が入職しました

本年度は、新入職員127名を迎え4月2日、3日の2日間で藤が丘病院・リハビリテーション病院合同で新入職員オリエンテーションを開催しました。医療安全、院内感染、診療情報管理等の病院職員としての基本的知識の研修、防犯・ストーカー対策等新社会人としての生活に必要な研修、医療従事者と患者の信頼関係の構築に必要な不可欠なコミュニケーション・マナー研修を実施し、また、防災訓練では実際に消火器を使用した訓練や、避難訓練を体験してもらいました。この新入職員オリエンテーションでの経験が、藤が丘病院の理念である「医療の質・安全の向上、患者本位の医療、地域への貢献、医療人の育成」を達成出来るスタッフに成長する為に役立てればと考えています。

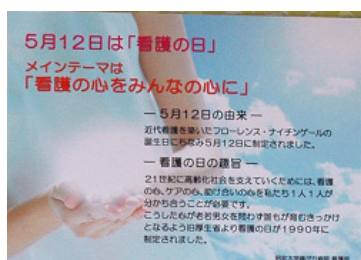


藤が丘病院イベント 「看護の日」フェスティバルを開催して

今年看護の日「5月12日」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの功績と生誕にちなみ制定され、今年20周年とナイチンゲール没後100年の節目の年となります。

厚生労働省／日本看護協会は、看護の日20周年広報の中で「**感動看護～折れそうな心まで支えて見せる。～**患者の微妙な心の動きまで見守り、ケアできてこそ看護職と呼ばれます。血圧を測る、聴診器で聴くという行為はもちろんですが、看護本来の姿である手と目で見る行為のなかで、なにげない会話のなかで実はあらゆる患者の情報をつかみとっているのです。そんな看護職の“命を支える技術”こそが、感動を生む看護の原点となっています。」とあり、改めて看護師としての技術と心で患者さんの思いに寄り添うことの大切さを感じています。

今年度、看護の日メインテーマ「看護の心をみんなの心に」をもとに、身体計測(身長 体重 血圧 体脂肪測定)AEDの実演、健康相談を実施し、11時開始の予定で準備を進めていましたが、開始時間を待たず人盛りとなりました。心待ちにしていた患者さんもあり、お蔭さまで身体計測約170名、AED演習約45名、看護相談9名の参加がありました。特に、AEDへの関心が高く、「高齢者がいるから」など、身近な人の有事のときに役立てたいと体験希望が多くありました。フェスティバルが無事終了でき、関係部署の方々に感謝申し上げます。
(看護部 菊地美恵子)



□新人看護師 ワッペンにお気づきですかー



外来や病棟にいる看護師の中にワッペンを付けている看護師がいるのをお気づきですか？このワッペン、新人看護師であることをあらわしています。新人看護師を育成するにあたっての環境整備を目的とし、10月末日までの半年間ワッペンに守られながら看護師としての職務を経験し、成長していきます。

病院からのお知らせ COOL BIZ (クールビズ) 開始します

昭和大学は、全施設一丸となって、地球温暖化防止対策に取り組んでいます。皆様のご理解とご協力をお願い致します。冷房の設定温度は、28℃です。実施期間：平成22年6月1日(火)～9月30日(木) ※気象条件により、期間は変更する場合があります。



病院からのお知らせ

□「青葉区大学リレー講座」 昭和大学公開講座 「暮らしと健康」 ～心血管病の運動療法～

平成22年6月26日(土)午後2時より、昭和大学藤が丘病院 C棟臨床講堂にて、昭和大学公開講座が開催されます。

イントロダクション: 心臓・血管疾患の現状について

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 院長 嶽山陽一

演題1:心疾患 健康スポーツ内科 教授 橋本 通

演題2:末梢血管疾患 内科循環器 助教 礒 良崇

【問合せ先】昭和大学藤が丘病院 管理課 045-971-1151(代表)

TOPIC

□安全管理ワークショップ

平成22年5月17日、18日、20日の3日間にわたって、医療安全管理室による安全管理ワークショップ(チームトレーニング)が開催されました。『チームの「協働」とコミュニケーション』をテーマとし、合計146名の職員が参加型のワークショップに取組みました。「今後に役立つ」、「他職種の意見や思いを聞くことができた。他職種とのコミュニケーションが大切」という意見を得ることができました。

□“栄養ことはじめ”(NST講演会)を開催しました

平成22年5月13日(木)“栄養ことはじめ”(NST)『術後に早く回復する! ERASプログラム』と題した講演会を開催いたしました。

職員をはじめ、外部の医療関係者も多く参加した講習会となりました。



□ボランティア活動



例年、正面玄関や救命センターにボランティアさんによるガーデニングを行っています。写真の花は去年、ボランティアさんが植えた花の様子です。今年も、花植えを6月頃行う予定となっております。